



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>

雪解けとともにカタクリやフクジュソウなどの春植物が咲き始め、春の訪れを感じる季節となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。只見町ブナセンターでは感染症対策を徹底する中、講座や観察会を開催しております。新年度も引き続き、自然環境の保護・保全活動、只見の自然情報の発信、さらには、自然との暮らしの中で育まれた地域固有の伝統的な生活・文化を地域経済にいかす取り組みに努めて参ります。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

===== 開 催 中 =====

【企画展】

「只見の猛禽類」会期延長が決定！

ただみ・ブナと川のミュージアムにて開催中の本企画展は、この度皆様からのご好評を受け、会期を延長することになりました！4月終了予定だった会期は6月6日（月）まで延長されることとなります。この機会にぜひ足をお運びください。

■会 期：2021年12月4日（土）～2022年6月6日（月）

■場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

===== 開 催 案 内 =====

【講座】

「ワシやタカという生きもの～強そうなのになぜ絶滅危惧種になるのか～」

新型コロナウイルス感染拡大を受け延期となっておりました本講座を、4月23日（土）に開催することが決定いたしました。

■開催日時：2022年4月23日（土）13:30～15:30

■開催場所：只見振興センター1階 集会室（只見町只見宮前 1390）

■講師：横山隆一氏（公益財団法人日本自然保護協会参与、只見ユネスコエコパーク支援委員）

■参加費：無料

※オンラインでのライブ配信も行います。講演時間内にブナセンターの公式 YouTube チャンネル(右記 QR コード)よりアクセスし、講演タイトルの動画を開いてください。



【自然観察会】

春から初夏の野鳥観察会

4月から6月の毎月1回、最終日曜日に野鳥観察会を開催いたします。
繁殖期を迎えた只見町の野鳥を観察できる機会です。ぜひともお誘いあわせの上ご参加ください。



開催日	4月24日(日)	5月29日(日)	6月26日(日)
時間	9:00(集合) - 12:00(解散)		
観察地	黒谷川周辺	恵みの森	只見湖、新田沢
集合場所	朝日駐在所横 駐車場 (只見町黒谷御蔵前 1088)	恵みの森 駐車場 (只見町布沢)	ブナセンター 駐車場 (只見町只見町下 2590)
定員	各回 15名		
申込み	電話 0241-72-8355 までご連絡ください 締切日は 各回前日		
参加費	高校生以上 400円 / 小中学生 300円 / 町内在住の小中学生・高校生 100円		
持ち物	双眼鏡、防寒具、雨具、飲み物、軽食、マスク		

毎春恒例! 春の自然観察会

タイトル	春の花観察会	新緑のブナ林観察会
開催日	4月30日(土)	5月1日(日)
時間	13:00(集合) - 16:00(解散)	9:00(集合) - 12:00(解散)
観察地	余名沢	癒しの森
集合場所	季の郷 湯ら里 駐車場 (只見町長浜上平 50 深沢温泉)	癒しの森 駐車場 (県道 352 号線沿い 松坂峠)
定員	各観察会 15名	
申込み	電話 0241-72-8355 までご連絡ください 締切日は 4月29日(金)	
参加費	高校生以上 400円 / 小中学生 300円 / 町内在住の小中学生・高校生 100円	
持ち物	長靴、雨具、飲み物、軽食、マスク	

※悪天候時や新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、中止あるいは時間短縮の場合があります。
その場合、参加をお申し込みいただいた方には事前にご連絡いたします。



【只見ユネスコエコパーク関連事業（学術調査研究・人材育成）】

令和3年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業は、ユネスコエコパークに登録された只見町の自然環境・生物多様性や民俗・歴史の調査研究に取り組む研究者に町が助成を行い、科学的観点からの新たな価値の発見や研究成果の活用、さらに各研究機関との交流の推進を図ることを目的としたものです。

令和3年度は3件の調査研究が本事業の助成を受け、調査研究を行ってきました。例年、年度末には調査研究の成果を報告する発表会が開催されます。今年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2月5日から3月31日の期間にてオンラインなどにより発表会が開催されました。各調査研究の概要を以下にご紹介します。

1. 「只見町木ノ根沢集水域におけるゼンマイ個体群の分布 ～生活史段階に着目して」

武藤実緒（横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科）、

近藤博史、酒井暁子（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

ゼンマイは日本海側の豪雪地帯で多く採集されている山菜で、地域の文化や経済における重要な生態系サービスである。しかし、過疎化などで利用が減少しており、生育地の情報等が失われつつある。本研究はゼンマイ生育地の把握や保全・管理のための指標として生態学的な知見を提供し、持続可能な資源利用に貢献することを目的とした。叶津川上流域の木ノ根沢集水域において、ドローンを



を用いた空撮によって急傾斜地も含めたゼンマイの分布を明らかにした。また、ゼンマイの成長段階ごとの生育環境を調べ、その分布が形成されるメカニズムを調べた。

分布調査の結果からは、北東向急斜面の上部の局所的な湿潤地を中心にゼンマイが生育していることが示唆された。成長段階ごとの生育環境調査の結果からは、実生は、暗く、コケ類が覆い、葉や枝の堆積が少ない場所に集中する傾向があった。実生の定着には乾燥を回避できる環境が重要だと言える。成熟個体は、実生よりも明るく、土壌が厚い場所に分布がシフトしていた。一方で、成熟個体の中でも相対的に暗い場所で大型化する傾向があった。

今回の調査で明らかになったゼンマイの成長史段階による生育環境の違いは成長の過程で生存や成長に及ぼす環境要因が変化することを示唆している。今後はこれらの関係をより詳細に調べるとともに、個体群動態の解析を行い、個体群の維持に必要な情報を明らかにしていきたい。

2. 「只見町の古民家は何の木で作られているのか？～2015年から2021年の調査のまとめと今後の展望」

阿部伶奈（信州大学大学院理工学研究科）、岡本誠矢（信州大学工学部建築学科）、
土本俊和（信州大学工学部）、井田秀行（信州大学教育学部）

古民家およびその生活様式には、地域の自然資源を合理的かつ持続的に利用するための生態学的な知識が豊かに含まれている。そのような地域固有の伝統的な知識体系（伝統知）を理解し、応用することは、今後の持続可能な社会の発展を支える上で不可欠である。本研究では、平成27年から行ってきた只見町での古民家調査の結果と今年度の追加調査の結果を総括する。7年間の調査で実測調査を計12棟の古民家で行い、うち11棟で部材の樹種判定を実施した。また、古民家の解体後の古材利用の現状について把握するため、只見町の古民家の解体に関わった複数の工務店に聞き取り調査を行った。



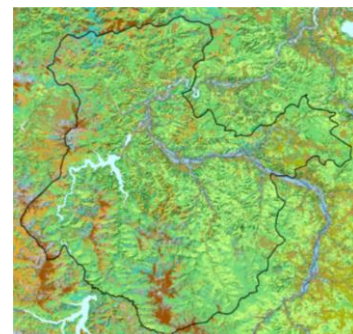
古民家の樹種構成は概して只見町の現存植生に類似していた。材積量の多いスギ・キタゴヨウ・ブナに関して使用部材別に着目すると、各樹種で特徴的な使用がみられたため、樹種の特性を捉えた適材適所の樹種選択がなされていたことが推察された。一方、古材の需要の低迷や古材を扱える技術者の不足により、古民家解体後に古材が建材として再利用されているとは言い難い現状があった。

古民家の放棄や解体が進む中、古民家や古材の価値を見直し、その利活用の促進を図るためには、解体にかかる時間や費用を理解した上で保存・再利用しようという所有者の意志が不可欠である。また、解体・古材選別に関わる技術者の育成も重要である。かつての只見町では樹種の特徴を捉えた地域材の有効活用があったことが本研究によって明らかとなった。こうした調査結果を地域住民にも広く伝え、古民家や古材利用の価値向上に役立てることが次の課題である。

3. 「只見ユネスコエコパークおよび周辺域における生態系マップ作成」

平山英毅、原慶太郎（東京情報大学総合情報学部）

今年度の研究の目的は、只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象とした生態系の持続的な維持管理に向けた生態系マップを作成することである。昨年度試行的に作成した現況植生図の改良を進めると共に、優占種（属）レベル（ブナ属、マツ属など）の植生図から分類タイプを統合した相観レベル（落葉広葉樹林、常緑針葉樹林など）の植生図の作成を試みた。只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象とし、以下の手順で植生図の作成を進めた。まず、地球観測衛星によって取得された衛星画像を収集・整備した。次に、現地調査および空中写真を用い、どこに何の植生が存在しているかといった必要な情報を整備した。最後に、AIの一つである機械学習技術を用いて植生図



を作成した。

衛星リモートセンシングと AI を用いて作成した現況植生図は、検証の結果、現在の植生分布を的確に表現できていることが明らかとなった。この要因としては、衛星データの整備方法や機械学習を用いた解析手法が適切であったこと、真値の整備を正確に実施できたことが考えられた。また、群落タイプごとの垂直分布や傾斜角度との関係からも、現況植生図が只見ユネスコエコパークの植生分布を的確に表現できていると考えられた。

只見ユネスコエコパークとその周辺域を対象に、衛星リモートセンシングと AI の一つである機械学習技術による現況植生図を作成することができた。今後、現地検証を行い植生図の正確さが担保されることで、自然環境の維持・管理に貢献することができることが期待される。

【只見町ブナセンター運営委員会】

令和3年度 第2回会議が開催されました！

只見町ブナセンター運営委員会は、ブナセンターの適正かつ効果的な運営及びブナ林に代表される自然環境を核とした地域活性化を図るために設置されています。3月18日、今年度の2回目の会議が開催され、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面、オンライン、書面参加をあわせた形で行われました。

渡部町長挨拶の後、鈴木和次郎委員長の司会により会議が進められ、事務局より令和3年度の只見町ブナセンターの事業（1. 只見ユネスコエコパーク関連事業〈自然環境の保護・保全、調査研究、人材育成、地域振興等〉、2. ただみ・ブナと川のミュージアム及びふるさと館田子倉関連事業〈常設展示、企画展、講座、観察会等〉、3. その他事業〈刊行物、広報等〉）を報告し、これらの事業について協議されました。委員会からは主に以下のような意見が出されました。

- ・町の魅力を発信・認識していただく機会となる町内外の研修の受け入れの継続
 - ・人と自然との共生を伝える「自然首都・只見」伝承産品を活かしたイベント開催
 - ・人文系の調査の充実、研究者の受け入れ
 - ・子供たちの学習機会の充実（コロナ禍でのただみ子ども芸術計画の開催）
 - ・館内撮影の許容の検討
 - ・町内の施設間の連携の強化
- など

只見町ブナセンターではいただいたご意見をもとに、令和4年度のブナセンターの活動の充実に活かして参ります。なお、3月31日をもって、委員の任期が満了となりました。2年間にわたり貴重なご意見をいただいた委員の皆さまに感謝申し上げます。



=====**お 知 ら せ**=====

【施設情報】

今秋再開通の只見線の歴史も伝える「ふるさと館田子倉」

ふるさと館田子倉では、田子倉ダムの湖底に沈んだ旧田子倉集落の自然と生活・歴史を伝える民俗資料を展示しています。2階展示室には、ダム建設のために敷設された只見線の歴史を伝える貴重な資料や解説、一昨年定期運行を終えた只見線キハ40形の車両模型が展示されています。只見線全線再開通のこの年に、車窓からの壮大なブナ林、里山の風景を楽しみながら只見へお越しいただき、是非当館にもお立ち寄りください。



只見町ブナセンター 令和4年度行事一覧（予定）

■企画展

開催期間	タイトル
2021/12/4 ~ 2022/6/6	「只見の猛禽類」
2022/6/11 ~ 9/12	「只見のカエル」

■講座・自然観察会

月	日	タイトル
4	23	講座「ワシやタカという生きもの ～強そうなのになぜ絶滅危惧種になるのか～」
	24	野鳥観察会（黒谷川）
	30	春の自然観察会「春の花観察会」
5	1	春の自然観察会「新緑のブナ林観察会」
	29	野鳥観察会（恵みの森）
6	26	野鳥観察会（只見湖・新田沢）

<編集後記>

只見の長い冬もいよいよ終わりが近づいてきました。冬が終わると森に住む生きものたちの活動も活発になります。この機会に春を告げる鳥や草花を観察してみたいはいかがでしょうか。

さて、今年度も「只見町ブナセンターだより」を通じて、みなさまにブナセンターの活動内容や主催イベント情報などをお届けしますのでぜひお楽しみになさってください。（三瓶）



発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター



電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：高校生以上 310円 小・中学生 210円 只見町内在住の小・中・高校生 無料

（20人以上は団体割引）